



聖園女学院中学校・高等学校

自分を肯定し、他者と助け合う
国際教育の土台にあるのは「愛」

①放課後にネイティブ教員と英語で交流ができる「MEA」②南山大学の留学生と一緒に他者理解を学ぶ「Global Friends」③本校の卒業生である昭和医科大学の肥田教授から医療の仕事について学ぶ④自然環境教育「MISONO 竹林プロジェクト」が清泉女子大学主催の「探究サミット」で優秀賞に⑤中3の希望者を対象に行われるNZ研修



PICK-UP

進路選択に活かされる 中高大連携プログラム

本校では南山大学の他にも多くの大学と協力して「中高大連携プログラム」を実施しています。同じカトリック校である上智大学の「タイスタディーツアー」、清泉女子大学の「探究サミット」などに参加し、貧困問題や環境問題など地球課題について考える機会が与えられています。また、卒業生が教授として活躍している昭和医科大学と包括連携協定を結ぶなど、多くの大学と連携を図っています。校外の学びは生徒たちの視野を広げ、指定校推薦や総合型選抜入試などにも活かされています。

本校はキリスト教の精神をすべての学びの基盤におくカトリックの学校です。生徒一人ひとりが「かけがいのない存在」の自分と向き合いながら、将来どのように他者や社会に貢献していくかを考え、自分の使命を見出しながら成長してほしいと願っています。昨今、社会のグローバル化が進み、世界の共通語である英語のスキルを身につけることがますます重要になっています。もちろん、英語力は大事です。けれど、すべての国の人々が理解できる言語は「愛」なのではないでしょうか。

本校は母体である南山学園の理念「人間の尊厳のために」の精神に基づき、さまざまな国際教育プログラムを用意しています。その一つが、南山大学の留學生別科の外国人と交流を行う学園内連携プログラム「Global Friends」です。このプログラムには2つのステップがあり、まず同大学国際教養学部北村雅則教授から、日本語に不慣れた人に分かりやすく伝えるための「やさしい日本語」について学びます。人とコミュニケーションを取るときは、相手の置かれている立場や状況を考えながら、相手に分かりやすい言葉を使って伝えることが大事です。こうした他者理解を学んだ後、次は国際語である英語を使って、さまざまな国の留學生たちと文化交流を行います。今年度は「お弁当」をテーマに、それぞれの国の人たちの自国の食文化に対する思いを聞きながら、みんなが笑顔になれるお弁当を考えました。このように、本校の



江藤 幸代
国際交流室長・
英語科主任



鹿野 直美
教頭・生徒指導部長・
音楽科主任

国際教育は、キリスト教精神の軸となる「愛」を土台に行われています。

会話とスキルの両面から
実践的な英語力を育てる

同時に、世界中どこにいても必要になる英語力の向上にも力を入れています。全学年を対象に毎日放課後に開かれている校内留学の部屋「Misono English Academy (MEA)」では、ネイティブ教員が常駐。日常会話やレクリエーションを楽しみながら、毎日英語が話せる環境を用意しています。

また、「Global Education at Misono (GEM)」では、英語スピーチコンテストの参加に向け、英語の原稿の添削からプレゼンテーションの表現向上まで個別にサポートを行っています。このように、コミュニケーションとしての英語とスキルとしての英語を両面で育てています。

さらに、中3のニュージランドや高1のカナダなどの海外研修・留学も充実。聖園で身につけた英語を海外でチャレンジしてみたいと、世界に飛び立った卒業生も多数います。聖園で育んだ愛に満ちた「他者理解の心」と「確かな英語力」で、世界を舞台に自分の使命を果たしていくってほしいと思います。

